

第2回 日本リビングウイル研究会

【テーマ】 認知症とリビングウイル

尊厳死に関わる問題を考えるとき、460万人ともいわれる認知症の人の存在を抜きに議論することはできません。認知症でもリビングウイルを宣言することはできるのか。古くてあたらしい問題を医療、福祉、患者・家族のそれぞれの立場から考えましょう。

【日時】 2013年11月23日（土・祝） 13:00～17:00

【会場】 政策研究大学院大学 「想海樓ホール」

東京都港区六本木7-22-1 TEL03-6439-6000
(大江戸線六本木駅7番出口、日比谷線六本木駅4a出口、千代田線乃木坂駅5番出口)

【参加費】 無料

【申し込み】 ハガキかメールでお申込み下さい
宛先：〒113-8790 文京区本郷2-27-8-501 (社) 日本尊厳死協会
メール： eto@songenshi-kyokai.com

【スケジュール】

➤ 【第1部】 13:00～14:50

➤ 座長：鈴木 裕也（日本尊厳死協会 副理事長）

- ① 認知症の基礎知識とその周辺課題 ---15分---
--長尾 和宏（医師・日本リビングウイル研究会 副代表幹事）
- ② 医学的見地からの認知症 ---15分---
--野元 正弘（医師・愛媛大学大学院薬物療法・神経内科 教授）
- ③ 認知症患者の家族からの意見 ---15分---
--天野 武城（これからの福祉と医療を实践する会 副理事長）
- ④ 認知症と法律 ---15分---
--青木 仁子（弁護士・日本尊厳死協会 副理事長）
- ⑤ 認知症とリビングウイル 海外の事情 ---15分---
--岩尾 總一郎（死の権利協会世界連合 理事）

➤ 【第2部】 15:00～16:50 ワークショップ & ディベート

座長：長尾 和宏（日本リビングウイル研究会 副代表幹事）

認知症の患者さんは、リビングウイルを表明することができるのか。
家族が認知症の患者さんの意思を代弁できるのか。
事前指示書は効果的か。
医療代理人制度は必要なのか。

（登壇者）

- ① 天野 武城（これからの福祉と医療を实践する会 副理事長）
- ② 佐藤 眞一（大阪大学大学院人間科学研究科 教授）
- ③ 青木 仁子（弁護士・日本リビングウイル研究会 副代表幹事）
- ④ 信友 浩一（医師・九州大学名誉教授）